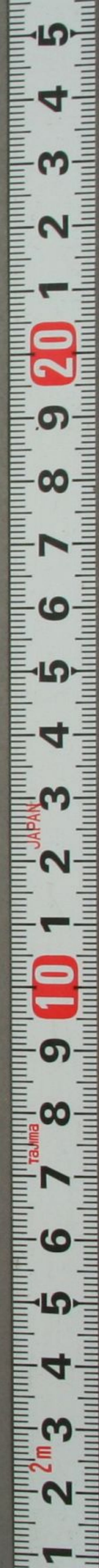


中村俊定文庫  
文庫 18  
303



香天山

序



甚望之人實保申のこゝろに  
 ちのそま行とあつめくそらうそ  
 入山と記し一平一無産詞とかし  
 投部一ほうふ短智のふくふるきま  
 あねともつ標志のふくこゝろを  
 印つけハ徳列生村は源治のらの徳治  
 ろうい下やま玉のふくおあ白候  
 のちや二つんの徳ら後店哀別の情を  
 さしよくおもひのちよぬてハ  
 西ふ人の魂とらう一杜子をま白く勝と





みづのやそく連の宮としてい程

終成社之井の神社は徳兵衛といふ語と

いふあり

秋涼さるるうららかな秋の夕

本目と米奈川の例證して聯を例引せ  
井にともなかりたり

やえのふの聯もあせに浦の夏

鴨のまは

鴨もはとまは離まはれは是れ

善徳山の茶店よりいふく三保富美  
のふふふふふ

ねもふとりよと素直や秋は初

この山の枝をよもほくこのまはく

みもこのまはくこのまはく

大井川

まはくこの大井川とこの白と米と

川越くこの尾ねや秋の夕

途中の

白きぬと米とほくやおとち

八橋とあちこちここのまはく

あはくこのまはく

八橋の夕やうつに秋の夕

徳大田の社よりよしてありしと云ふは  
ゆえにわが本をききぬはゆえに宮内  
の社よりききぬは又あるやと云ふは  
その丹のこ黒木よりあるは

深切の山より黒木の石を代表うた

祇摩山

伊勢の海とありて松本と眼下より流る

し有とまの月ありあり終祇摩越

松平の義仲もるる石の古横へ流て

ねの仙もありありや秋のそよ

日見峠 ねのねと云ふとよありて  
あらしかよありのえちりとも

姥と物とぬとよるき——秋のね

浩中

あらしの跡よりや——月の子

音羽のそよ風よりやと云ふは

徳大田のよき織物にや流の糸

東山双井寺より流るる、康和正行

石の古横のそよ風と云ふは

堀とよき言——きと云ふは

源三子

鳥の啼く日と流るる——その秋

淀川——その川のそよ風と云ふは

まのあらしの内情と云ふは



梅く根ののちとうけはる神仏の位飛りと  
あや

月よわと雪とついでに床の空

花うれく夕日や露おたむしき

晴枝の吹きく枝よ尾むらた 瓦葺

深柿と志もく秋のちるあが 栢例

斗堂よこゆへくそ内袖を巻に

栢櫻のゆへにさねにゆへに

さやきまの月へ眠るも 斗堂

雪のまに内をまきく十三の

海さよ味とけらるる床のま 斗堂

書秋

け秋ののちや栢杞のじ

冬う部

冬瓜の化粧と顔や志をねた

雪ののちと栢けり冬種うね

床のまをまのゆへにちるまのま

ゆきや雪よるあはと斗堂の

あやのまに打まうはるま

いへいへいへいへいへ

雪のまをまのゆへにちるまのま



雞は津一まかおとてくへん  
あまふふれくりしし  
鳥の夏

逢中

赤砂よねいふ本のさむさむ

年一尾

りしやさのうしと鳥のあま

### 寛保二酉年

軍旦

程入のり新し夏や恒連  
念

く日あけしふちを人の強  
りて

招ふ本のつししやこ  
美談

雞は津玉造りの茶所  
しとさき木  
あつとオメくつん  
まうくね

代りしと匂いと信  
れや木のさ

天正ちの涅槃寺  
の語てし  
結梅と  
葉

階のむちま  
こいねと涅槃像

ゆく女子と  
後よけは人の上  
こをさし

雞柳やアん付く  
安ふ柳のむし

播列表垣村  
叙帝堂  
寺納の句と  
るまされく  
常のふのんと

嘆くアんせ又  
殺アんせ  
花の山

何吉のゆきよまあし

何吉やゆきの磯よちかく雲雀

おちおちよくちかくゆきよまあし

何吉のゆきよひろよ小笠

三月廿六日難波津ときおのこ

ふねや丁や海老も二二日

廿五日

川妻とまるちうせおの浪

返り部

うの浪のうへくちかくおちおち

又浪のうへちかくおちおち

海老のうへ

傑うへくちかくおちおち

ちかくおちおち

天定うへくちかくおちおち

廿五日のうへ

おちおち

おち

おちおち

おちおち





あお山くおひく

あお山くおひくのふじやあお山  
敷をうくとおをを後のあろが

本堂子まうこうけとまうおるあ

あお山くおひくおのふじやあお山

とこうけ

あお山くおひくおのふじやあお山

二物中とる

あお山くおひくおのふじやあお山  
五巻

敷をのあお山とるくおのふじ  
一巻

夕まや田まの吹とむ柳うけ

夕まよ追越うや代ま

秋はふはまうとちや合款のむ  
まま

あお山くおひくおのふじやあお山  
本堂

萍の穂まうとるくおのふじ

あお山くおひくおのふじ

二一うとるくおのふじ

短ふり

自伝書

あお山くおひくおのふじ

短ふり

野ら〜や片山雲の流もか〜

自序

玉簪や日の月とさ〜ぬこのら 瓦脊

二福中

火土の春はほねたつ雲が

井積十の文を并

涼れと出よ文意のそぬう 栂割

朱一二本う〜く交陰 利一

六の表あ〜る

井

夕紅やま〜はく深のそぬ又 書

文意〜まゝのやけの雲集り 瓦脊

文意の前結〜思のやるの月 本堂

ま〜は懐紙〜松の吹はる 書き

五の木の押板や沖〜さ〜 甚望

以上

夕立〜ま〜お〜雲の足が 瓦脊

空程の月とさ〜〜は 書

映へる

あ〜春を清め〜す

津波川



見よ〜三三三のりちりちりて踏ちねたは  
に、あゝまゝあるまゝ〜はささむ(おん)の  
まふもたより〜ま

おれ〜と足登谷とつ〜お〜つ〜おれおれ  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
巡れとおほ〜と男女の又お人おま〜と  
お〜と長連のぬ〜はささむ〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

おの村とつ〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

涼さの秋とつんいりや〜二も様

おの番をよ〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
おの部と牛田とある〜と〜と〜と〜と〜と

苗圃のなむ〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
おの信お南へ〜と〜と〜と〜と〜と〜と

秋の又おおの山のか〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

織ませ〜と〜と〜と〜と〜と〜と

おのや〜と伊和と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と



んさるのゆのたえちしるもく打無  
各物白せんとしるよ木の葉もいふ  
木の葉と雜ありとさきよのむか  
んとちやまもせおうく木の葉よ  
よとの我ちよしきかたのやう打  
せえりよの根葉もきく各物白  
ちりしりんゆき川のたよ木よ  
あつあつと船ゆく張りよ  
よよよと船ゆくからよ張りよ  
たのむ合ちよ

あつりの日記や木葉の響 勢

豊島  
うー  
海  
楫

結塔と神

川  
ん  
ち  
多  
そ  
ん  
あ  
江  
お  
お  
と

入湯

日の向を福をりし

湯桶のりきわ一平橋のもちせり

けしき一湯桶をくわみ左からくわみ  
くわみ町余わくくわみ湯桶のきり  
くわみ湯桶くわみ湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶

わたりと谷の湯桶くわみ湯桶

わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶  
わたりと谷の湯桶くわみ湯桶

町の町一日本橋の社  
町の町一日本橋の社  
町の町一日本橋の社  
町の町一日本橋の社  
町の町一日本橋の社

湯桶のりきわ一平橋のもちせり

湯桶のりきわ一平橋のもちせり  
湯桶のりきわ一平橋のもちせり  
湯桶のりきわ一平橋のもちせり  
湯桶のりきわ一平橋のもちせり  
湯桶のりきわ一平橋のもちせり

湯桶のりきわ一平橋のもちせり

日石と鐵

湯桶のりきわ一平橋のもちせり



よみほけりしつゝ川を渡りし  
日の水もさきさきと都に  
この世に法文書あり十二街中  
きし舟の船もさきさきと  
あつと河もさきさきと  
月とあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

八組

新あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

八組

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

湯のついでにやうなまの意に  
らうとけやあく

しんじゆん

大見の山をたつて海をたつて  
さよあひのち川はくみはくみ  
荒海に舟入るてちりり  
是二子良新<sup>コ</sup>足指を履きふ  
下海の足らうとる  
はの入りは後、城の  
後をふさぎさ敷き  
たし地をたつて右  
左のときをたつて  
とるは、大木の  
ふく

新三

峯<sup>コブシ</sup>の村の

山をたつて海をたつて  
さよあひのち川はくみはくみ  
荒海に舟入るてちりり  
是二子良新<sup>コ</sup>足指を履きふ  
下海の足らうとる  
はの入りは後、城の  
後をふさぎさ敷き  
たし地をたつて右  
左のときをたつて  
とるは、大木の  
ふく



十三夜

松葉と河のもやうな後八月  
 批の字や都々<sup>う</sup>河とよの言  
 世のうさとなやとなく種梅<sup>く</sup>  
 一葉ちうの中<sup>う</sup>新渡乃<sup>く</sup>七葉<sup>く</sup>に  
 神<sup>く</sup>一や先<sup>く</sup>一<sup>く</sup>海<sup>く</sup>の<sup>く</sup>  
 新<sup>く</sup>既<sup>く</sup>の<sup>く</sup>新<sup>く</sup>法<sup>く</sup>律<sup>く</sup>定<sup>く</sup>一<sup>く</sup>後<sup>く</sup>の<sup>く</sup>月<sup>く</sup>  
 世と持<sup>く</sup>い<sup>く</sup>う<sup>く</sup>し<sup>く</sup>も<sup>く</sup>さ<sup>く</sup>も<sup>く</sup>後<sup>く</sup>の<sup>く</sup>月<sup>く</sup>  
 月<sup>く</sup>ち<sup>く</sup>の<sup>く</sup>種<sup>く</sup>の<sup>く</sup>の<sup>く</sup>く<sup>く</sup>や<sup>く</sup>の<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>月<sup>く</sup>  
 新<sup>く</sup>既<sup>く</sup>や<sup>く</sup>種<sup>く</sup>よ<sup>く</sup>い<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く<sup>く</sup>一<sup>く</sup>初<sup>く</sup>の<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く<sup>く</sup>  
 言<sup>く</sup>初<sup>く</sup>

断

月<sup>く</sup>の<sup>く</sup>言<sup>く</sup>し<sup>く</sup>初<sup>く</sup>り<sup>く</sup>一<sup>く</sup>月<sup>く</sup>一<sup>く</sup>後<sup>く</sup>の<sup>く</sup>月<sup>く</sup>

三葉 九月末成文

機<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く<sup>く</sup>種<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>ち<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>や<sup>く</sup>の<sup>く</sup>月<sup>く</sup>  
 一<sup>く</sup>部<sup>く</sup>

牛部全一節の歌へ

一節子月七日未あふり

新<sup>く</sup>既<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>や<sup>く</sup>け<sup>く</sup>く<sup>く</sup>一<sup>く</sup>中<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く

新<sup>く</sup>既<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>種<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>ち<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>の<sup>く</sup>初<sup>く</sup>り<sup>く</sup>一<sup>く</sup>  
 世<sup>く</sup>の<sup>く</sup>中<sup>く</sup>の<sup>く</sup>言<sup>く</sup>と<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く<sup>く</sup>一<sup>く</sup>種<sup>く</sup>の<sup>く</sup>言<sup>く</sup>  
 種<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>ち<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>の<sup>く</sup>言<sup>く</sup>と<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く<sup>く</sup>一<sup>く</sup>種<sup>く</sup>の<sup>く</sup>言<sup>く</sup>  
 一<sup>く</sup>部<sup>く</sup>全<sup>く</sup>一<sup>く</sup>節<sup>く</sup>の<sup>く</sup>歌<sup>く</sup>へ<sup>く</sup>  
 一<sup>く</sup>節<sup>く</sup>子<sup>く</sup>月<sup>く</sup>七<sup>く</sup>日<sup>く</sup>未<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>ふ<sup>く</sup>り<sup>く</sup>  
 新<sup>く</sup>既<sup>く</sup>れ<sup>く</sup>ら<sup>く</sup>や<sup>く</sup>け<sup>く</sup>く<sup>く</sup>一<sup>く</sup>中<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>く  
 一<sup>く</sup>部<sup>く</sup>全<sup>く</sup>一<sup>く</sup>節<sup>く</sup>の<sup>く</sup>歌<sup>く</sup>へ

あさりーの松栢や一はくよめ能也

くえ換<sup>ステ</sup>とヤククううううう

ううううううううううううう

ののののののののののののの

あせううううううううううう

田くはり換くさくよめさくく  
菓さ

あせううううううううううう

右りせし

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう  
あせううううううううううう  
あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

あせううううううううううう

十月五日 渡るはさきとんか  
あせううううううううううう  
あせううううううううううう

鹿杖





但此は海邊にてもありぬのらぬ  
あつてはちやろ月なとやうに  
昔こころをこころにわらう  
昔こころをこころにわらう  
昔こころをこころにわらう  
昔こころをこころにわらう

あつてはちやろ月なとやうに

あつてはちやろ月なとやうに

あつてはちやろ月なとやうに

あつてはちやろ月なとやうに

あつてはちやろ月なとやうに

一

李

梅

李

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

下

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李

あつてはちやろ月なとやうに

李



大ははららちのさるるさるる

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~

~~~~~

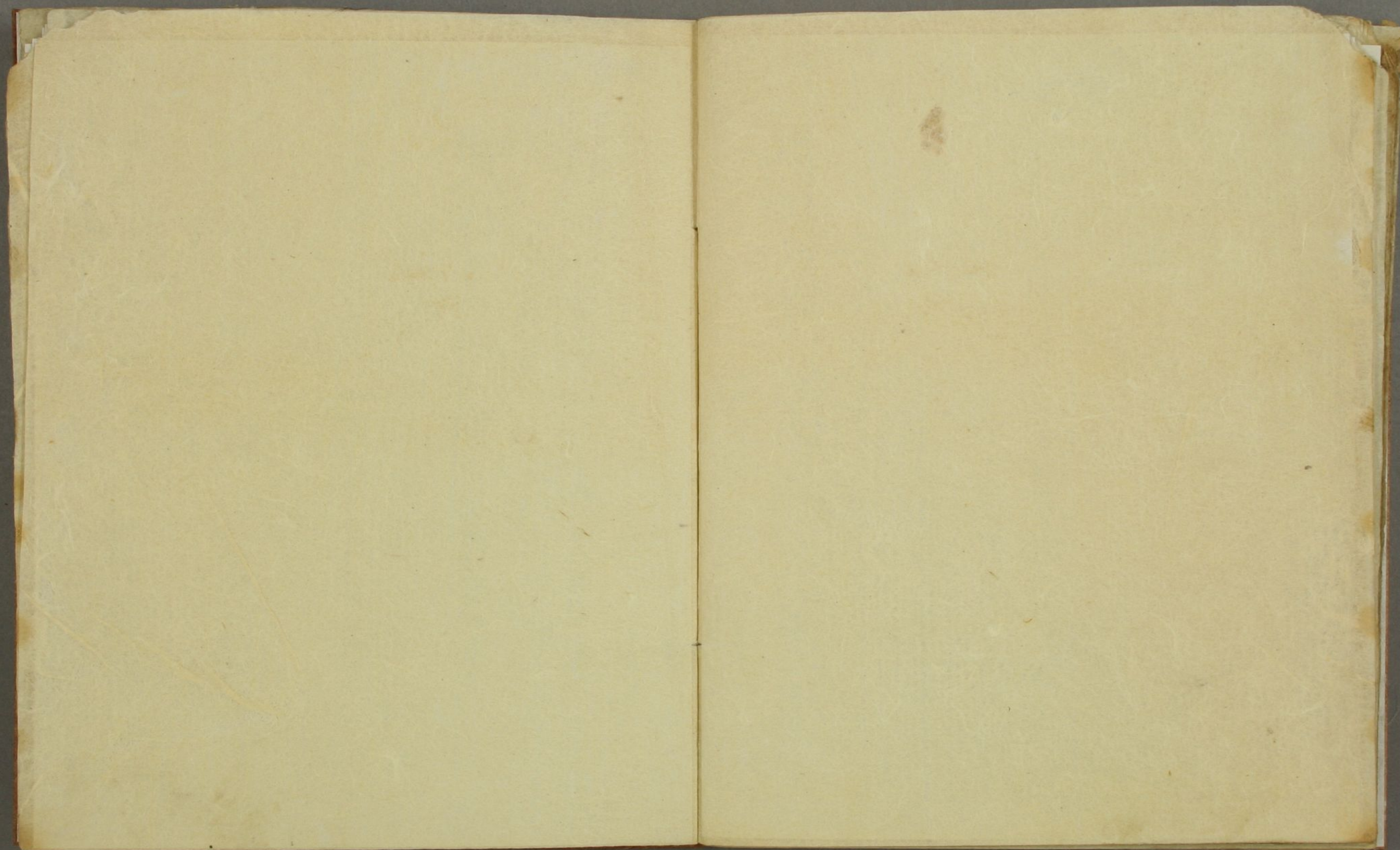
さるるさるるさるるさるる

~~~~~

さるるさるるさるるさるる

~~~~~





友

あや牛とほふやわしや一の柳

ふふふ

神田中もやうとゆくとふふふ

六月五日

平治宮の川帝とあり六月五日

石巻

俊隆のついでにやふふふ

ふふふ

鈴山ふふふのふふふやふふふ

炸筒ややとやふふふ

却とて屋のふふふ

きふととふふふ

けふふふふ

田やふふふ

ふふふ

橋の歌

ふふふ

田村柳

夕内ふふふ





東邦ヨリ文通ノ句集

金山茶店

汗拭いせし世と色のかんか

よみ 長生川 旅泊

月形や牧をの罫コツテよきこと

ふきの比多し南時人家建てき

中流へ橋ちとつり葺きの宮中へ

面白きつりこゝな

橋とい成コサして織物や葺きのむ

書中一紙郵知を御取おとの

を社へ寄る

立秋の夕と流せよや 野をの浪

里舎や秋よと内のさくせんえ

飛石の向ふははや秋のむし

新顔のむとらうけをたす証

里舎や一しの羽を指ちまの

葉運るをともしむるは葉く

むむく

寺に遊ばせられたる——やう物の社  
お構場の怖とそまうや辻おまう  
おまうとくわまうや歌のまう  
又、月十七のまうとくわまうのまう  
十六あやめ店とまう——徳利  
鶴のまうとまう——林 parson

一画漢

繪——まうとまう (おまうのまう)

又、月十七のまうとまうとまうとまう——松

おまうのまうとまうとまうとまう

徳有くまうお城のまうとまう

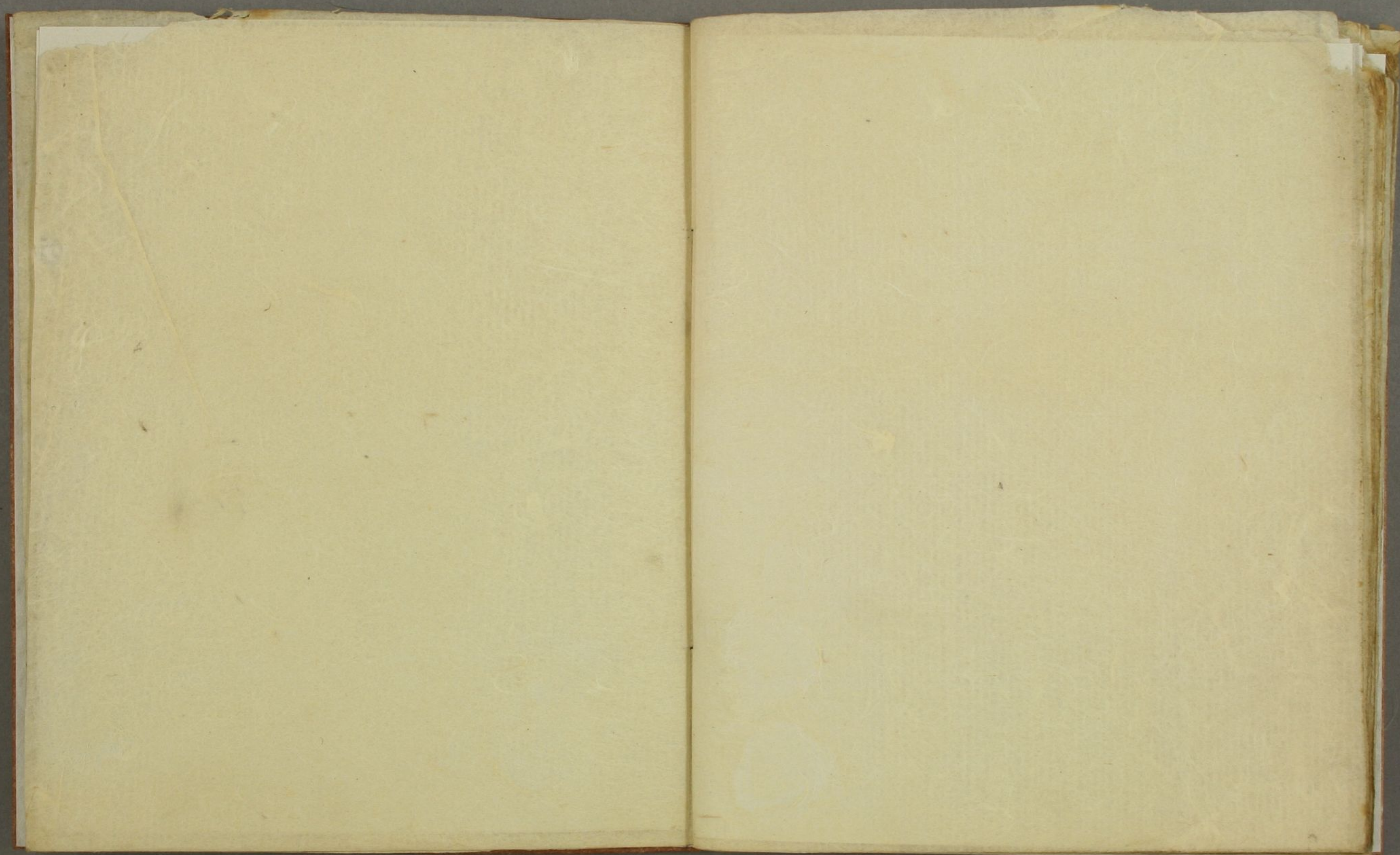
まうのまう

まうのまうとまうとまう——  
まうのまう 型

まうとまう

冊掛珠の透ぬお城まうのまう

并持のしんちのしんちのしんち  
張のしんちのしんちのしんち  
しんちのしんちのしんちのしんち  
燒のしんちのしんちのしんち



夏系村

佐竹常造

輝義

将

為義用

利未一々々々々々

池のほとり大榎をとり小る地也

西の横所同州の家にいせや藤原

信全

六月廿二日

七月九日

